

東北ブロック会議（平成27年9月4日・宮城県・仙台市：江陽グランドホテル）

参加者は約160名。ブロック大会の総会に先立ち、文部科学省の主催による「職業実践専門課程」制度周知のための説明会が開催された。

はじめに文科省による行政説明として専修学校教育振興室の星川正樹専門官が、職業実践専門課程制度創設の経緯と意義、認定状況、及び前年度の認定を振り返っての認定要件のポイントについて説明を行った。また今後の制度の更なる充実の為には、特に学校評価の充実が不可欠であり、全ての専修学校における自己評価の実施・公表を呼びかけ、都道府県協会等主催の学校評価に関する研修会や、第三者評価の実施推進事業についての説明が行われた。「新たな高等教育機関」関係については、教育再生実行会議の提言を受けた有識者会議の「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の在り方について」（審議のまとめ）を基に ①高等教育の多様化の必要性 ②新たな高等教育機関の基本的な方向性 ③制度化に当たっての個別主要論点、について説明が行われた。

続いて学校法人西野学園の前鼻英蔵理事長が自校の事例を紹介し、申請に際し時代や現場のニーズに即したカリキュラムの再編成のための見直し、検討を行えたのが良かったこと、また申請の手続きにおいて困ったことや他校を参考にいかに効率的に手続きを行うか等が説明された。また、認定を受けることにより教育の質保証・向上に効果的であった点について、「地域・業界からの視線を意識しながら学校運営を行う意識が浸透したこと」、「情報公開や広報活動等、学園、学校からの情報発信が活性化したこと」、「地域貢献や地域連携などの授業や事業が活発に行われるようになったこと」、「就職先や業界からの学生や卒業生の評価を今後の教育課程や学校活動に反映することができたこと」、「学校祭や学生参加型のプロジェクトなど学生の自主性を育てる活動が生まれたこと」、「他職種との連携について地域、業界からの強い要望が認識できたこと」が挙げられ、さらに認可後の大きな変化として自己点検評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会の結果からPDCAサイクルが生まれたことが述べられた。そして、学校関係者は内部監査によって運営の見直しを常に行い、認定を受けたらそれで終わりではなく、時代の変化に即応して学校が変化していくことが必要である、と述べ締めくくった。

説明会の後、東北ブロック大会の総会となり、飯岡智大会実施本部長・宮城県副会長が開会の言葉を述べ開会となった。次いであいさつに立った菅原一博東北ブロック長・宮城県会長は、大震災から4年半が経過し復興は少しずつ進んでいるが原発事故への対応はいまだ先が見えず、また人口減少も著しく東北では震災復興と同時に地方創生にも取り組まねばならず、それを担う人材の育成は専門学校の最も重要な使命であり、様々な社会的要請に応えるためにも東北6県の連携強化が重要と述べた。また、全専各連の小林光俊会長のあいさつに続き専修学校制度40周年文部科学大臣教育功労者表彰・全線各連会長表彰、及び東北ブロック永年勤続者表彰が行われた。

来賓祝辞では、村井義浩宮城県知事（代理）、桜井充参議院議員、郡和子衆議院議員、松

良千廣宮城県私立中学高等学校連合会長がそれぞれ会の盛会を祝してあいさつを述べた。

引き続き文部科学省専修学校教育振興室の星川正樹専門官が、平成27年度の専修学校関係予算について、初めて総額で40億円を超えたこと、また安心して学べる環境の実現に向けた修学支援として「専門学校生への効果的な経済支援の在り方に関する実証研究事業」が新規予算として盛り込まれたことについて説明を行った。併せて、平成28年度においては同実証研究事業に6億円の概算要求を行っており、文部科学省としては関係者の協力を得て、今後この事業を積極的に推進していく意向を述べ、その他人材育成関連等の予算関連の説明を行った。また公職選挙法の改正により選挙年齢の18歳への引き下げに伴う専門学校における主権者教育等の充実及び周知啓発についての説明と、今後における学校等の関係者への協力の要請があった。

全専各連事務局からは、教科「職業とキャリア」を始め研修事業等TCE財団の実施する諸事業への積極的参画の呼びかけが行われた。また実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関制度化において、基本的に制度としては異なるが職業実践専門課程のベースとなる考え方や基準が新制度に取り入れられる事は十分に考えられるため、職業実践専門課程制度をより良いものにするためにも全専各連の指針の内容を取り入れ、とりわけ学校評価に関しては必ず実施するよう呼びかけが行われた。

総会の議事は、菅原宮城県会長が議長となり、①平成26年度事業報告並びに収支決算報告について、②平成27年度事業計画並びに収支予算案について、③平成28年度東北ブロック大会開催県について、の各議案について説明がなされ原案通り全会一致で承認され、岩手県から龍澤正美会長が次期開催県を代表してあいさつに立った。その後、鈴木一樹大会実行副委員長が閉会の言葉を述べ、総会を終了した。

基調講演は仙台市秋保・慈眼寺住職塩沼亮潤師が、千日回峰行自身の体験や考えについて熱く語った。その後懇親会となりすべての日程を終了した。